



体験活動による感動と学びを大切に

副校長 野口 妙子

1月19日にPTAのご協力を得て「なわとび教室」を実施しました。講師にお招きした生山ヒジキさんは、ギネス世界記録を14個も持っている、日本で唯一のプロなわとびプレイヤーです。子供たちは目をキラキラ輝かせながら、約20分間のなわとびパフォーマンスを見ていました。

その後のなわとび教室では、1・2年生は縄の扱い方を中心に前跳びに挑戦。3・4年生は、あや跳びや交差跳び、「跳ばない縄跳び」という技にも挑戦していました。5・6年生は、さらに難しい二重跳びや三重跳びに挑戦しました。ヒジキ先生が、あや跳びや二重跳び、三重跳び等のコツを教えてくださいと、子供たちは真剣に練習を始めます。「あ、できた！」教わった通りに何度か練習をすると、いつの間にか跳べなかった技が跳べるようになるのです。その日の休み時間には、校庭で縄跳びの練習をする子供がたくさんいました。子供たちは、ヒジキ先生の技に魅了されて「もっとやってみたい。」と思ったのだと思います。本物に触れる、体験を通して学ぶことの大切さを、子供たちを通して私も感じました。

岩淵小では1年を通して子供たちに様々な体験活動を通した学びの場を設けてきました。先日行った学校評価の保護者アンケートでも、「学校は多様なゲストを招いたり、児童の思いや願いを大切にしたりして、教育活動を充実させている87%」「学校は、地域の人材や荒川の自然などを生かした学習を進め、地域を愛する心を育んだり、身近な自然環境への興味・関心を高めたりしている96%」と、高い評価をいただきました。これからも体験を通して学ぶことを大切に、子供たちの力を育ててまいります。



デモンストレーション。音楽に合わせて見たことのない技をたくさん披露してくださいました。



なわを使ってウォーミングアップ



跳んだ後は、カッコいいポーズ



座ってジャンプ。自分の身体を上手にコントロールできるように。



大谷選手からグローブが3つ届きました

全校朝会では6年生と4年生の児童にキャッチボールの実演をしてもらいました。その後、各クラスに「野球しようぜ！」という大谷選手のメッセージとともにグローブを順番に回しました。これまで野球に触れてこなかった児童も、初めてのグローブにとっても喜んで使っています。